

# 抑制かぼちゃ

月	旬	作型	主要作業	栽培の要点	摘要																	
7	中		本圃耕耘 基肥施用	1. 圃場準備 ・乾燥期のため、播種10日前までにたい肥、基肥を全層施肥する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防風対策 畑の周囲と圃場に5～6畦ごとに防風ネット等を設置する。 台風時は茎葉を漁網ネットなどで痛めないように覆い損傷を最小限にとどめる。</li> </ul>																	
	下			<p style="text-align: center;">施肥例(10a当り)</p> <table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">品種名</th> <th style="width: 20%;">えびす</th> <th style="width: 20%;">こぶき</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>完熟たい肥</td> <td>2000kg</td> <td>2000kg</td> </tr> <tr> <td>なたね油粕</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>ミネリンパワー</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>B化成1号</td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>燐硝安化里646号</td> <td>40</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>NKC3号</td> <td>40(追肥)</td> <td>40(追肥)</td> </tr> </tbody> </table>		品種名	えびす	こぶき	完熟たい肥	2000kg	2000kg	なたね油粕	100	100	ミネリンパワー	100	100	B化成1号	60	60	燐硝安化里646号	40
品種名	えびす	こぶき																				
完熟たい肥	2000kg	2000kg																				
なたね油粕	100	100																				
ミネリンパワー	100	100																				
B化成1号	60	60																				
燐硝安化里646号	40	0																				
NKC3号	40(追肥)	40(追肥)																				
8	上		播種	2. 栽植密度 畦幅×株間:3m×0.5m 660株(10a当り)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土作り 根張りを良くするため完熟堆肥を投入し土作りを図る</li> </ul>																	
	中			敷きわら																		
9	下		整枝	3. 品種:えびす、こぶき10a当たり種子4dl 4. 播種:8月10日中旬以降で直播き(降雨後)、1ヵ所1粒播き発芽を揃えるため深く播かない。予備苗として3号ポットに移植して、本葉1～1.5枚展開する頃に補植する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチ 乾燥・雑草防止のためマルチをする場合は、アブラムシ対策を兼ね、シルバーマルチを使用する</li> </ul>																	
	上			病害虫防除		5. 敷きわら ・高温乾燥、風害防止、品質向上のため、つるが伸びないうちに敷きわらをする。ない場合は風によるつるの移動、損傷を防ぐため早めにつるの上に土を載せて固定する。																
#	中		追肥	6. 整枝 ・親つるは1本仕立てとする。子つるは着果節位まで早期に摘除する。ウイルス病罹病株は早期処分し蔓延を防ぐ。	<p style="text-align: center;">2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26 28</p> <p style="text-align: center;">1～14節      15～18節</p> <p style="text-align: center;">子づるは      に1個着果</p>																	
	下			玉直し		7. 開花・交配 ・自然交配(虫媒)だけでは着果実が不安定であるので、人工交配し、着果の促進を図る。1株1果とし1.5kg以上を生産目標とする。																
#	上		玉直し	8. 病害虫防除 ・特にうどんこ病防除を徹底し、発生の恐れのあるときや発生をみた場合には手遅れにならないよう薬剤散布を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交配時期 この作型は初霜までに収穫を終える必要があるため、交配は遅くとも9/中旬までに行う。</li> </ul>																	
	下			追肥		9. 追肥 ・草勢を見ながら果実の肥大始めに行う。																
#	上		玉直し	10. 玉直し ・収穫25日前(着果後20～25日後)に行う。品質向上のため必ずシートを敷き玉直しをする。その時に節根は持ち上げないように注意する。																		
	中			収穫		11. 収穫 ・目標収穫は10a当り1.2tとする。品質は外観はもとより果肉色の濃いものが高く評価されるので、日数で着果後45～50日(積算温度で950～1100 )を確保し、完熟収穫を徹底する。また収穫後14日程度の追熟を行う。																
				12. 収穫調製 ・収穫後、果梗は5mm程度に短く切り風乾する。																		